
平和な国を作しましょう！！

野間口 遊

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

平和な国を作りましょう！！

【Nコード】

N75940

【作者名】

野間口 遊

【あらすじ】

“王国”なのに王がいない国、シュオーマ王国。この国は王がいないため、政治が機能しておらず、あちらこちらで盗賊が跋扈し、民は飢餓で苦しんでいた。そんなシュオーマ王国を自分の国にしようと、四人の若者が立ち上がった。全ては、平和で安全で戦争のない国を作り上げるため……。平和を求める建国ファンタジー、堂々開幕！！

ブログ シュオーマ王国の歴史（前書き）

初めまして、作者の野間口です。

今回は本格的なファンタジー作品を書いてみました。

ジャンルとしては“建国ファンタジー”って所かな？

ではでは、前書きはこの辺にして、早速ですが本編の方をどうぞ！

プロローグ シュオーマ王国の歴史

シリラム大陸南西部

シュオーマ王国

この国は“王国”だが、王はいない。

貴族もいない。

役人もいない。

いるのは……民のみ。

今から10年前……

このシュオーマ王国は、近隣のヒンバー帝国と戦争を起こし、敗れ

た。

完敗だった。

完璧社会主義のヒンバー帝国は、シュオーマ王国の国王、その家族、その他国政を任されていた貴族、役人等の完全抹殺を実行。

シュオーマ王国第26代国王、ハリバーン、セルネーラ他、シュオーマの全貴族役人は処刑された。

だから今、このシュオーマには民しくない。

国を治める者がいなければ、国は乱れる。

国のあちらこちらでは強盗が跋扈し、弱き者から全てを略奪する。

国の王がいなければ、司法は成り立たない。

つまり、国王がいないため、国の法律が意味を成さなくなる。

罪を犯した者を、法律に従い処罰を与える者がいないのだ。

役人は抹殺されたから。

人を殺しても、罪にならない国。

シュオーマは荒れ果てていった。

ヒンバー帝国は、貴族役人の抹殺を終えた後、シュオーマの統治権を放棄。

他の国も、この荒れ果てた国など欲しがらない。

シュオーマの民は飢餓に苦しんだ。

たとえ作物を作っても、強盗に持って行かれるだけだから。

強盗に反抗しよう物なら、その場で虐殺。

もう、民は他の民から物を奪う事で生きながらえる。

何なら、構わず人を殺す。

そんな国。

シュオーマは荒れ果て、そして……

この国は、滅亡を迎えようとしていた。

第1話 シュオーマ王国入国・前編

「強い者だけが生き延びる事の出来る国、シュオーマ王国……」

シュオーマ王国の南の隣国、ガダリア共和国。

ガダリア共和国は10年前、隣国シュオーマ王国に攻め込まれた事があった。

その時は、シュオーマ王国の北の隣国、ヒンバー帝国に救援を求め、南北からシュオーマを挟み撃ち。

そして、何とかシュオーマ王国相手に勝利を納めたのだ。

そんなガダリア共和国の北部、シュオーマ王国の国境に1番近い町“ユギー”にある小さな宿。

築10年、木造2階建て。

かつてはシュオーマとの戦争時に、前線へ向かう兵が宿泊したと言われている、小さな宿だ。

現在は一般の客が主に利用している。

その宿の一階の奥にある食堂、そこに一人の若者が椅子に腰掛け、一枚の小さな紙をまじまじと眺めていた。

「シュオーマ、ねえ……面倒臭さそーだな」

明るい茶色の髪、透き通るような黒い瞳、整った顔、程よく筋肉の付いた体。

「全く……俺は奴隷じゃねえんだってんだ!!」

「いや奴隷だ」

「なっ……!!」

若者はハッと振り返る。

そこには、がたいの良い中年の男性が一人。

「ほほう、レルラ。貴様いつからこの俺様に陰口を叩ける身分になったんだ、あ？」

「なっ……き、聞こえていたのか……」

若者は大量の冷や汗を流しながら、視線をあっちこっちへ泳がせる。

「……レルラ、表出ろ」

「…………え？」

中年の男性は、若者 レルラの着ている服の襟をグッと掴み、顔を近付ける。

「いいから表出る」

その言葉には、ただならぬ威圧感が……。

「は、はい……」

レルラは、頷くしかなかった。

若者の名はレルラ・リリユーザ。
ガダリア共和国出身の、18歳。

「レルラ、テメエは俺様の目的を忘れたのか!？」

外での鉄拳制裁。

それが終わった後、レルラは中年男性の部屋へ強制連行させられていた。

「わ、忘れていません」

レルラは床に正座。

彼の顔はあざだらけ。

「ほーう……ならばレルラ、この場で目的を言ってみろ！」

中年男性は部屋のベッドに腰掛け、足を組む。

「目的……それは……」

レルラは棒読みで言った。

「シュオーマ王国を、俺達の国にする事」

レルラは面倒臭さそうに頭をかく。

「……フツ」

一方の中年男性は、ベッドから立ち上がり……

「俺達じゃねえだろッー!!」

ドスッ!!

「ぐはっ!!」

レルラの腹に蹴りを一発入れた。

「ゲホッゲホッ……テメエ、このクソジジ……人が下手に出てりや調子に乗りやがって……」

レルラは咳込みながら、中年男性を睨み付ける。

「黙れレルラ。俺達の国じゃねえ、俺様の国だ!」

中年男性は仁王立ち。

「この野郎……」

レルラはハア〜とため息を一つ。

「全く……もう嫌だ」

「ハハッ、歉け歉け、テメエは一生俺様のしもべだ!!」

ガハハハッと、高笑いする中年男性。

その時……

バタッ!!

突然、部屋の扉が開いた。

そして、

「おいレルラ、ジジイ、そろそろ出発の時間だ」

黒い鎧を纏った男性が、部屋に侵入。

「なっ……ぐ、グロース！！ お前今、俺様の事何て……」

中年男性はその黒い鎧の男に怒りをぶつける。

「うるせージジイ、もうリアーナは馬車に乗って待ってるんだ。急げ」

「っ……グロース！！」

黒い鎧の男性 グロースは中年男性をシカトし、レルラに声を掛ける。

「レルラ、お前も急げ。早く荷物とか持ってこい」

「あいよ」

レルラは怒り心頭の中年男性の横を通り、荷物のある自室へ。

「ジジイも急げよな」

「グロース！ テメエも後で鉄拳制裁だ！！」

『俺様は荒れたシュオーマ王国を手に入れ、この俺様の国を1から作る!!』

かつて、彼が言った言葉。

その言葉に、三人の若者が乗った。

飢餓も奴隷も戦争もない、平和な国を創る。

その言葉の元に……。

「もうすぐでシュオーマ王国国境だ!!」

ガダリア共和国、ユギーの町発の、一台の馬車。

その馬車には、四つの人影があつた。

「シュオーマ王国に入ったら、多分すぐに最初の町ヒロタに着く。各自強盗には十分気をつけろよ!!」

赤い重鎧を纏った中年男性は、馬車に乗る他の三人に向かい、注意を促す。

「了解……」

黒い鎧を纏ったグロースは、眠たそうな返事。

「わーった。……それよりジジイ、腹減った!」

紺色を基調とした布服、そして下は黒のズボン。レルラは自らの腹を摩りながら、食事を要求。

「なっ……レルラ、貴様もかッ!!」

中年男性はやはりお怒り気味。

「リアーナ、何か飯持っていないか?」

レルラは中年男性を軽くシカトし、隣に座っていた若い女性に食物

要求。

「……………」

一方の女性 リアーナはツンとした態度でレルラをシカト。
ぽーっと外の景色を眺めていた。

橙と白を基調とした布服、下はショートパンツ、膝にはプロテクター、そしてブーツ。

「ハッハッハ、レルラの馬鹿がシカトされてやがる!!」

中年男性は腹を抱えながら爆笑。

「なっ……ウルセエジジイ!!」

「ジジイだっ!! レルラあ!!」

中年男性はレルラの首をぐつと締め付ける!!

「があゝ、テメエジジイ!! 放せえ!!」

「ウルセエレルラ、俺様はジジイじゃねえ、ボンガ!! ジルオ様だっ!!」

中年男性 ボンガは、さらにレルラの首をきつく絞める。

「だあゝギブギブ、苦しゝ!!」

レルラの顔は青白くなっていく。

「おいジジイ、手綱放していいのか？」

「グロース、だったら貴様が運転しろ！！」

ボンは相変わらずレルラ締め付け中。

「メンドイな……」

グロースは嫌々運転席へ。

そして、リアーナは相変わらず無言、視線は外。

その時！！

「おい貴様ら、止まれ！！」

突然、馬車の前に斧を持った男達が数人現れた。

「俺達はトカー盗賊団。命が欲しけりや馬車止めて、金目の物を置いてさっさと逃げな！！」

盗賊団の面々は皆、たくましい筋肉、恐もての顔、手には斧。

しかし……

どーんっ!!

「ぐあっ!!」

「だーっ!!」

「あべしっ!!」

グロースは盗賊団を無視。
馬車で彼らをひいた。

「んあ？ 何かにぶつかったか？」

……無視ではなかった。
普通に気付いてなかったただけだった。

「て、テメエ……やってくれるじゃねーか……」

盗賊団の面々はお怒り気味。

「ん？ 誰だあんたら？」

グロース、火に油。

「野郎共、もういい！ 奴らを殺せえ!!」

『オー!!!!』

盗賊団は各自斧を構え、馬車に突撃！！

「盗賊か？　って事はもうここはシュオーマか」

グロースは相変わらずのんびり状態。

そして、馬車の中に向かい一言。

「強盗襲来」

「……うわっジジイ、外見ろ！！」

「ウルセエレルラ……ってうおっ！！　強盗かつ！？」

一方、馬車内に強盗達が侵入を開始。

「くそっ……レルラ、リアーナ、戦闘準備！」

「了解っ！！」

「……だる」

レルラは腰のベルトから一本の剣を抜き放つ。
銀色に輝く剣。

ボンガは馬車の荷台に置いてあった等身大の楯と、鋼製の鎚を手に

取る。

リアーナはレルラとボンガの後ろに回り、荷台から弓を取り、構える。

「俺様が前に出る。レルラは右、リアーナは左を頼む!!」

そついいながら、ボンガは敵に向かい突進。

「うおおおおおおおおおお!!」

腹の底から声を出し、鎚を振るう。

「うおおおおりゃああ!!」

一方の盗賊も、斧を構え突進。

「ジジイ!!」

そして、斧と鎚がぶつかった。

第2話 シュオーマ王国入国・後編

「あゝ……面倒臭さいなゝもう」

馬車の先頭。

そこには、長槍を構えたグロースと、斧を構えた強盗が数人。

「ヘッヘッへ、大人しく命を差し出しな！」

強盗の一人がグロースに接近。

「……嫌だな。俺あ痛いのは嫌いなんで」

ヒュンツ！！

グロースは槍を構え、強盗に対し突きを放つ！！

「うおっ！？」

突然の攻撃に、強盗は尻もち。

「あ……外したか。あゝ槍重い」

と言いつつ、グロースは突きを連発。

「うわっ、ちょっ、不意打ち止めっ！！」

強盗は尻を地面に付けながら後退。

「……なかなか当たらねえな」

ヒュンッヒュンッ!!

槍は強盗のすれすれを通り、地面にブスリ。

「うぬぬう……!! 野郎共、全員で掛かれ!!」

『オー!!!!』

強盗はグロースの槍を避けながら、他の強盗へ命令。

「1対多数か……じゃ、もう手加減はしねえ」

その時、グロースの目つきが変わった。

「野郎共、掛かれ!!」

『オー!!!!』

強盗は斧を振り上げ、
そして……

「……ふう」

「なっ……!!」

次の瞬間、命令を出した強盗以外、ここにいた全ての強盗が真っ赤に染まっていた。

「弱いのにでしゃばるな。死ぬぞ？」

グロース「ウィリア、22歳。

彼は、その槍先を最後の強盗に向けた。

「な……ななな……」

強盗は完全に戦意を失っていた。
その顔は恐怖に引き攣り、体は震えている。

「……俺達はな、この国を変えるんだ」

グロースは槍先を強盗の顔すれすれに突き付ける。

「お前みたいな野蛮な野郎は、邪魔なんだ」

そして……

グザッ……

「ぐあ……あ……」

槍は強盗の頭部を貫通した。

槍先は、真っ赤に染まった。

「ぐあっ……」

「へっ、弱い奴ばかりだな」

馬車の中、そこもまた地獄絵図と化していた。

「レルラ、リアーナ、無事か？」

返り血を浴び、真っ赤な鎧がさらに真っ赤になったボンガ。その鎧にも血が。

「ふう〜、こりや気が滅入るな……」

レルラもまた、大量の返り血を浴び、服や剣は赤く染まっている。

「……もう最悪。お風呂入りたい」

リアーナは逆に、あまり返り血を浴びていない。

「んだよ、リアーナはほとんど血、浴びてねえじゃんか」

「……私の武器は弓だから、返り血は浴びないの。それより、血生臭い」

リアーナは鋭い目つきでレルラを睨み付ける。

「なっ……し、仕方なねえだろ！！俺は接近主体の剣士なんだから……」

レルラ反論。

「……臭いのは嫌。あっち行って」

リアーナ「フェザナン、17歳。
性格はキツめ。」

「テメエ……」

レルラの怒りを完全無視し、リアーナは弓の手入れを始める。

「全く……」

レルラは込み上げる怒りを何とか沈め、馬車の外に山積みになっている物に視線を向ける。

「……………」

無数の赤で彩られたそれは、死体の山

強盗達の屍の山だった。

「……………」

辺りにハエが飛び交い始めた。
そして、異臭も漂い始める。

「…………おいジジイ」

「ジジイじゃねえ。ボンガだ」

ボンガは鎧をから拭き中。

「早く…………先へ進もう。シュオーマの首都へ」

レルラの顔は、悲痛なものだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7594o/>

平和な国を作りましょう！！

2010年11月7日03時49分発行